

114

contents

吉祥の花鳥画
生誕100年 香月泰男 追憶のシベリア
吉村芳生展
2010年度コレクション展第V期の見どころ
年間スケジュール

天花

TENGE



兼重昭香「梅にかさざき」1930年 山口県立美術館蔵

コレクション展

吉祥の花鳥画

1/8日～2/20日

花や鳥を描く花鳥画には、本来さまざまな意味を込められているものが少なくありません。鳥や獣、花や樹木が、不老長寿、子孫繁栄、立身出世などの願いを成就させる吉祥の図像として用いられてきたのです。この展示では、そんなおめでたい花鳥画を集めてご覧にいたします。

表紙作品解説

かねしげあんこう

兼重暗香(1872-1946)「梅にかささぎ」

1930年 絹本着色 掛幅装 200.0×111.2cm

山口県立美術館蔵

中国では、鶯(カササギ)は喜びごとの到来を報じる鳥とされて「喜鶯」と呼ばれ、鶯を描いた絵は「報喜図」と呼ばれます。梅は、「歳寒三友」という冬の寒さに耐える三種の植物(松・竹・梅あるいは梅・水仙・竹)のひとつであり、梅花はいち早く春の訪れを告げる花でもあります。鶯と梅は、いずれも吉事の到来を告げる画題なのです。作者である女流日本画家・兼重暗香の本名は「梅」。号の「暗香」は、少女時代に描いた梅の絵の上に父親が加えた詩中の語句から取られたといわれており、中国の詩人・林和靖の有名な詩句「暗香浮動月黄昏」に由来します。梅花の絵は、暗香にとって特別な意味を持っていたでしょう。

(学芸課主任 荏開津通彦)

①

2011年
画家、香
シベリア
術館では
として、
画家の
として、
シリーズ
での戦
が体験し

1970年 『私のシベリア』刊行
戦争を体験することがなかつた
に一生を費やしてしまうこと
だろう。だが体験したとは言
それはたぶんに傍観者のよう
ぬ。年月の流れがそう思わせ
絵を描く人間であったから……

1965



1974

2010年度コレクション展第V期の見どころ

日本人の油絵

松田正平 1/8(土)～2/27(日)

戦前のパリ留学で本場の油彩画にふれた松田正平(宇部市出身、1913-2004)。以後、生涯にわたって、「日本人ならではの油絵」を追求したこの画家の魅力や、当館所蔵作を中心とする約15点の作品によって紹介します。



松田正平 「周防灘」 1980年 山口県立美術館蔵

年間シリーズ企画〈雪舟と雲谷派IV〉

雲谷派画題辞典 故事人物

1/8(土)～1/30(日)

雲谷派は漢画(中国風の絵)を描く画派でした。そこで、雲谷派の作品には中国の故事や、歴史的人物を描くものが数多く見られます。一枚一枚の絵の「画題」を知ることで、絵の見え方も変わってくるものです。ちょっと勉強しながら絵を見る楽しみを味わっていただければと思います。

雲谷等顔「懶瓊嬾手図」
17世紀初期 紙本墨画 山口県立美術館蔵



10月以降のコレクション展入門講座

- | | | |
|-------|----------------|---------|
| 10.30 | 吉村芳生の自画像 | (河野通孝) |
| 11. 6 | 雪舟と雪舟流 | (荏開津通彦) |
| 2. 5 | 日本人の油絵 松田正平 | (河野通孝) |
| 3. 5 | 香月泰男のシベリア・シリーズ | (萬屋健司) |

学芸員によるギャラリー・トーク

展覧会会期中の毎週土曜日(入門講座開講日はなし) 14:00～(30分程度)

ボランティアによる子どものためのギャラリー・ツアー

“みんなでみよう”

「吉祥の花鳥画」

1月29日(土)、30(日) 11:00～11:30

「香月泰男のシベリア・シリーズ」

会期中の毎週土曜日 11:00～11:30

生誕100年

香月泰男 追憶のシベリア

会期

2011年3月2日(水) - 5月8日(日)

休館日 月曜日 *ただし3月21日は開館(翌22日休館)、
4月29日~5月8日までの期間は無休

主催 香月泰男展実行委員会
(山口県立美術館、朝日新聞社、yab山口朝日放送)

協力 香月家、長門市立香月泰男美術館



1947

雨<牛>

殺風景なホロンバイルの草原を少し感傷的に、鮮やかな色に仕上げた。戦争と抑留生活にすさみ切った心は、知らず知らずのうちに失ったものを求めていた。

1947年 復員。
タラップを降りて、日本の土を踏んだ。ゆるるタラップを踏みしめ、港に集まっている人々を見たとき、ふと、自分が亡霊のような気がした。なぜだろうか、自分が亡霊というよりは、亡霊を背中に背負っているという感じだった。収容所で死んだ仲間たちの亡霊が、一緒に船に乗って帰ってきたのかもしれない。



1959

北へ西へ

ほんとうにシベリアをシベリアらしく、あったがままに描くためには10年の歳月が必要だった。私が発見することができたシベリア・シリーズの顔は、あの死者たちの顔に他ならない。

1970年 『私の戦争を体験せずに一生を費やしよう。だがそれはたぶんぬ。年月の流絵を描く人間

1945

終戦



埋葬

異教の冷たい土の下に葬られる戦友を、シベリアでの埋葬のごとく描くことはとてもできなかった。せめて絵の上でなりと戦友たちを暖かく葬ってやりたかった。

1948

1950

1955

1956年 はじめての渡欧。
写真でしか知らなかった中世の彫刻や絵画をはじめて肉眼で見た。これが「私の顔」を作る上で最大のヒントになった。ヨーロッパでの体験がなければ、シベリア・シリーズは今あるような形にはならなかつただろう。

1960

1960年 恩師、福島繁太郎の死。
シベリア・シリーズの最大の恩人は福島さんだと思う。亡くなる前に、もっといい絵をたくさん描いて見てもらいたかった。

1965

1965

凍土

家の前の河川改修工事にやってきたブルドーザーのキャタピラを見ているうちに、ツンドラ地帯を走っていったソ連軍の戦車を思い出していた。ブルドーザーが戦車のように見え、家の窓が鉄格子のはまった俘虜輸送列車の窓のように思えた。



2011年に生誕100年を迎える長門市三隅出身の画家、香月泰男(1911-1974)。その代表作であるシベリア・シリーズ全57点を所蔵する山口県立美術館では、画家の生誕100周年の記念行事の一つとして、7年ぶりに同シリーズ全点を公開します。

画家の生前から高い評価を受け、山口をはじめとして、全国の美術館で公開されてきたシベリア・シリーズ。これまでの展覧会では、応召から満州での戦争体験、シベリア抑留そして復員と、香月が体験した出来事の順番に作品を紹介するのが

一般的でした。しかし本展覧会では、「三隅から追想するシベリア」にスポットをあて、復員からの早すぎる死によって幕を閉じるまで、シベリア・シリーズが描かれた順番に作品をご覧ください。四半世紀以上ものあいだ香月をとらえて離さなかった「シベリア」。その記憶と向き合う一人の画家の姿を通して、シベリア・シリーズの新たな魅力に迫ります。

この機会に是非、シベリア・シリーズとゆっくりご対面ください。

吉村芳生展

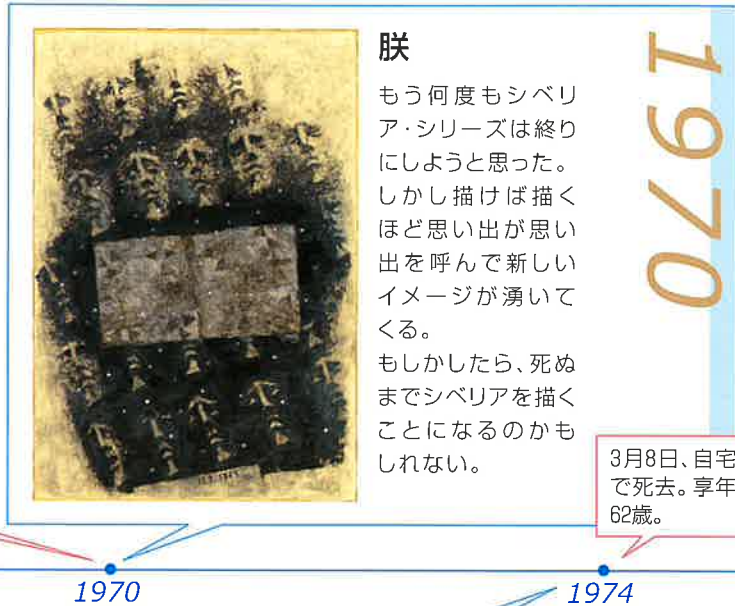
とがった鉛筆で日々をうつしつづける私

2010年10月27日(水)～12月12日(日)

吉村芳生(1950年、山口県防府市生まれ、現在山口市在住)は、1970年代中頃から、写真と見間違えてしまうほどに克明に描かれた鉛筆画を国内外で発表し続けてきた美術家です。今回の展覧会では、約60点におよぶ作品によって、吉村のこれまでの軌跡を紹介いたします。厳格な黒で構成された初期作品、豊穣な色彩の充溢する花の作品、そして、近年再び取り組み始めた「新聞」と「自画像」をモチーフとした最新シリーズを通して、その驚異的な細密描写からこぼれでる美しさをご堪能下さい。



図版説明 新聞の一面を鉛筆でまるごとうつしとり、その上に自画像を描いた作品。
「新聞と自画像 2010年6月14日」2010年 鉛筆、色鉛筆、墨、紙 147×109cm 作家蔵



朕

もう何度もシベリア・シリーズは終りにしようと思った。しかし描けば描くほど思い出が思い出を呼んで新しいイメージが湧いてくる。もしかしたら、死ぬまでシベリアを描くことになるのかもしれない。

3月8日、自宅で死去。享年62歳。

『シベリヤ』刊行。ることがなかったなら、単調してしまうことになっていた本職したとは言っても、私の傍観者のように思えてそれがそう思わせるのか、私であったから…か、と。

1970

1974

1974

渚くナホトカ>

シベリアを描きながら、私はもう一度シベリアを体験している。私がほんとうに見ていたものはなんだったのだろうか。夜のガランとしたアトリエの中で、一人カンヴァスに向かいながら私はそれをもう一度見ようとする。



- 【開館時間】 9:00-17:00 (入館は16:30まで)
- 【休館日】 月曜日
- 【観覧料】 一般900円(700円) / シニア700円(500円) / 学生700円(500円)
*シニアは70歳以上の方、()内は前売りおよび20名以上の団体料金。
*18歳以下、および高等学校、中等教育学校、特別支援学校に在籍の方は無料。

- 【主催】 吉村芳生展実行委員会 (山口県立美術館、朝日新聞社、yab山口朝日放送)
- 【協賛】 Cross Land山口 【特別協力】 エフエム山口
- 【助成】 芸術文化振興基金
- 【後援】 山口県教育委員会、山口市、山口市教育委員会、中国新聞防長本社、山口新聞社
- 【特別協賛】 ミサワホーム中国山口支店

2010-2011

schedule

山口県立美術館 平成22年度年間スケジュール

香月室	展示室A 工芸室	小林室	展示室B	展示室C	展示室D
		休館 4/5-4/12			
4 4/13~6/13 永地秀太と 近代の洋画	4/13~6/13 金工と赤間硯	4/13~5/9 防府天満宮と 明治維新 5/11~6/13 雲谷派創立	4/13~6/13 旅ニデヨウ	4/13~5/16 日本画の明治維新 森寛斎と狩野芳崖	
5					
6 6/15~8/22 中本達也の 人物像	6/15~8/22 人のかたち	6/15~7/19 大内氏と 防府天満宮 7/21~8/22 雲谷派画題辞典 中国名所	6/15~8/22 水のなかへ		6/15~8/22 ヌード -描かれた体、 -撮られた体-
7					
8					
		休館 8/23-9/15			
9 9/16~10/11 何モカイテナイ絵? 抽象画への招待	9/16~10/11 植木茂 I	9/16~10/11 山口の絵図	9/16~10/31 第64回山口県美術展覧会		
10					
		休館 10/12-10/26			
11 10/27~12/12 殿敷侃	10/27~12/12 明治・大正・昭和 の新聞 -山口県立図書館 所蔵による	10/27~12/12 雪舟と雪舟流	10/27~12/12 吉村芳生展		
12					
		休館 12/13-1/7			
1 1/8~2/27 日本人の油絵 松田正平	1/8~2/27 植木茂 II	1/8~1/30 雲谷派画題辞典 故事人物 2/1~2/27 寛永の巨匠 雲谷等益	1/8~2/20 吉祥の花鳥画	1/25~1/30 第63回学校美術展覧会	
2				2/2~2/6 山口県立大学卒業制作展 2/10~2/13 山口芸術短期大学卒業制作展 2/17~2/20 山口大学卒業制作展	
3 3/2~5/8 宮崎進の戦後	3/2~5/8 絵付けされた陶器	3/2~5/8 日本画の戦後	2/28-3/1 香月泰男のシベリア・シリーズ		

Information

■休館日

月曜日(月曜が祝日もしくは振替休日の場合は翌日休館)

館内施設整備、展示作業にともなう臨時休館

(4月5日~12日、8月23日~9月15日、10月12日~10月26日、12月13日~1月7日、2月28日~3月1日)

■開館時間

9:00~17:00(入館は16:30まで)

■料金

コレクション展:一般300(240)円 学生200(160)円

()内は20名以上の団体料金。

18歳以下と70歳以上および高等学校、中等教育学校、

特別支援学校に在学する方等は無料。

特別展:別途定めた料金

山口県立美術館
Yamaguchi Prefectural
Art Museum
〒753-0089
山口市龜山町3-1
TEL:083-925-7788
FAX:083-925-7784
<http://www.yma-web.jp/>

